
開講科目名：消費者法研究 (B) (2単位)

開設年次：1年

開設学部：法学研究科修士課程法学専攻

担当者：田口 義明

《授業の概要》

消費者法は、消費者の権利を守り、私たち一人ひとりが安心・安全な消費生活を送っていく上で不可欠な仕組みである。近年、活発に制定・改正され、目覚しく動いている、まさに旬(しゅん)の法分野である。

本授業においては、消費者法の考え方と体系を概観した上で、消費者が直面する取引被害や安全問題に対応するための主要な法律について講義する。

講義に当たっては、具体的な事例や問題を踏まえながら、実務的・実践的な内容に重点を置く。

(授業計画)

第1回 消費者金融と多重債務問題

第2回 金融取引と消費者1 (金融商品取引法)

第3回 金融取引と消費者2 (利殖商法、投資詐欺)

第4回 消費者の安全1 (製造物責任法)

第5回 消費者の安全2 (工業製品、医薬品)

第6回 消費者の安全3 (食品)

第7回 欠陥住宅問題

第8回 独占禁止法と消費者

第9回 景品表示法

第10回 個人情報保護法

第11回 消費者被害の救済1 (消費生活相談と相談情報システム)

第12回 消費者被害の救済2 (裁判外紛争解決手続 (ADR))

第13回 消費者被害の救済3 (裁判所における紛争解決)

第14回 消費者被害の救済4 (団体訴訟制度と集団的被害の救済)

第15回 消費者法が直面する主要課題

【評価方法】講義を踏まえた課題レポート及び授業への取り組み姿勢により総合的に評価する。

(比率は概ね70% : 30%)

《テキスト》

プリントを配布する。

《参考書》

『基本講義 消費者法(第2版)』 (中田邦博・鹿野菜穂子編、日本評論社)

『テキストブック消費者法(第4版)』 (伊藤進・村千鶴子・高橋岩和・鈴木深雪著、日本評論社)

『消費者事件 歴史の証言』 (及川昭伍・田口義明、民事法研究会)

『18歳から考える 消費者と法 (第2版)』 (坂東俊矢・細川幸一著、法律文化社)